

太宰府の文化財

395

大宰府政庁 特別史跡大宰府跡・観世音寺四丁目

本市には、古来の文化を伝える太宰府天満宮をはじめ、史跡・文化財が数多くあり、歴史・文化の街として知られています。その礎は今から1300年以上前に誕生した「大宰府」にあります。



正殿（政庁跡にて「VR大宰府アプリ」を使い撮影しました）



両脇の建物に上級官人の座席があったと考えられます（北西から）

大宰府は、北は杵岐・対馬、南は種子島・屋久島などの南島まで、九州全体を管轄した役所で、また日本の西辺を守り、海外との外交・貿易・帰化を担う重要な役割もありました。朝廷の一つの「省」よりも多

くの役人（官人）をかかえた巨大な組織であり、長官には大臣に次ぐクラスの高官が京から赴任し、本来は京におさめる税もここに集められ財源になりました。このため「遠の朝廷」（京から遠くはなれたところにある朝廷の意味）とも呼ばれています。

その中枢は大宰府政庁で、これを取り囲むように、所・司といった多くの部署が置かれていました。

この大宰府政庁一帯では、どのようなことが行われたのでしょうか。大宰府は全体的に京の宮殿や街とよく似た構造・配置となっており、朝廷の例が参考となります。

午前三時ごろ、御笠川のほとりの朱雀門が開くと、政庁前に官人たちが集まってきました。午前六時半ごろにそれぞれの門が開き、下級の官人は、政庁周辺にあるそれぞれ担当する所・司の建物に向かいました。大宰府の長官や所・司の長らは、南門から政庁に入って正殿・脇殿の所定の場所に着座し、午前中は所・司から提出される文書の承認・決裁をしたと考えられます。これが終わると、所・司の長は政庁からそれぞれの所・司に行き、執務を行いました。そし

てまだ日が高いうちに仕事を終え、帰宅しようです。

政庁では、時々儀礼も行われ、このとき官人たちは中央の庭に位に応じて整列しました。なかでも外国の使者を迎える儀礼は特別で、政庁へ入る南の大道・朱雀大路からはじまる、街をあげての太鼓のイベントとなったことでしょう。

今年は大宰府政庁跡で発掘調査がはじまって50年になります。政庁跡では、奈良・平安時代の太宰府の姿をバーチャルリアリティ技術（VR）を使って再現し、スマートフォンアプリで無料提供しています（政庁跡は無料Wi-Fiも使えます）。近々、ここで述べた政庁のようすを再現した新システムの公開も予定していますので、ぜひご覧ください。（詳しくは、日本遺産太宰府ホームページでもお知らせします。http://www.dazaifu-japan-heritage.jp）

文化財課 井上信正

